

あ と が き

○だらだらと続いた残暑もようやく終わり、すっかり秋になりました。核データニュース34号が出来上がりました。本誌は大相撲の本場所が行われる月をめぐりに発行していますが、このところ「休場」することなく続いているのも、皆様のおかげです。

●4年前、本誌の正式な編集委員会が発足したとき、面白く読み易いものにすることが目標の一つでした。たとえば会議の出席報告なども、学会誌には書かないような裏話や印象などを期待しました。核データのファミリーやファン拡大のために、直接関係していない人にも読んでいただけるような「柔らかな」報告や解説をお寄せくださるようお願いするものです。

○核データセンターのメンバーであり、本誌の改善にとり組まれてきた浅見哲夫さんがセンターを去ったのは昨年の中ごろでした。今年は、核データセンターの前身である核データ研究室設以前から活躍してこられた五十嵐信一さんが原研を退職されることになりました。米国あたりでは「雑用から開放されたから、一層充実した仕事ができるだろう」と期待するそうですが、これからも大いに頑張ってくださいと思います。

●来年、日本工業規格(JIS)原子力用語が改訂されます。JISではSI(国際単位系)を採用することにしています。SIでは中性子放出率は中性子毎秒n/sではなく s^{-1} ですし、粒子フルエンスの単位、たとえば α 粒子毎平方メートル α/m^2 という単位は使えず、 m^{-2} としなくてはなりません。このような単位の規格化には、いろいろご不満をおもちのむきも少なくないようです。

○テクニカルコメント、読者の広場への投稿を期待しています!!

ではこのへんで。 (喜多尾)